

「統計的センスとリテラシー教育」

株式会社オデッセイコミュニケーションズ

代表取締役社長 出張勝也

オデッセイコミュニケーションズでは、1997 年より、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験を実施運営してきました。就職、転職を控えた学生、社会人、職場復帰を目指す主婦層など、幅広い層の方々が MOS を受験されています。その数は 20 年間で延べ 410 万人になります。

当社では、MOS 試験以外にも、IT 分野のベンダー試験、業界団体による資格制度などをサポートしています。近年、力を入れているのが統計やデータサイエンスの分野です。

わたくしどもの統計関連学会連合とのお付き合いは、2016 年 8 月に始まりました。統計検定 2 級、3 級の CBT 試験の運営をサポートさせていただいております。全国 200 を越える当社認定試験会場にて、本年 6 月時点で、CBT2 級、3 級合わせて約 4,000 名の方々にご受験いただいております。統計に関連する資格試験としては、エクセルによるデータ分析スキルを評価するわたくしどもが主催するビジネス統計スペシャリスト、統計分野で利用されることが多い Python の専門知識を評価する一般社団法人 Python エンジニア育成推進協会による Python 試験も実施しています。

わたくしは法学部の卒業で、大学入試には数学がありましたが、けっして数学が得意な学生ではありませんでした。最初の就職先で金融電卓 HP12c を使って相関関係をとるということを教えてもらいました。それは 1983 年のことです。85 年から、アメリカのビジネススクールに留学することになりますが、先輩からは、事前に統計と簿記を勉強しておくようにアドバイスされました。

あれから 30 年以上たちますが、いまだ統計に関してきちんと理解できているのか、心もとないあります。しかし、統計的センスの重要性は理解しているつもりです。資格試験を通して、統計的センスを持った人材を多く育てていくことに会社としても貢献していきたいと希望しています。当社のミッションのひとつは、各分野におけるリテラシー向上に貢献することであり、これからの社会で必要とされるスキルや知識を、専門家のみなさんからのご指導を受けながら、広く社会に伝えていくことです。広告などで使っている「新しい資格、新しいキャリア」は、当社の目指す貢献を伝えようとしたものです。

そもそも統計的センスとはなにか？オデッセイコミュニケーションズが統計教育の普及にどんな貢献ができるのか？みなさまからのアドバイスをいただきながら、考えていきたいと希望しています。